令和４年３月２５日

おぼらだれん

徳之島町立花徳小学校
校　長　　石川　雅実

本校に赴任して三年の月日が流れました。この度の県教職員人事異動により転勤することになりました。本校では，併設されている町立幼稚園の園長も経験させてもらいました。在任期間中，公私共に大変お世話になりました。保護者，地域の方々，教職員の温かい御支援と御協力に感謝致しております。子供たちの明るく元気な姿や素敵な笑顔に日々癒されました。

御存知のとおり，新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に日々追われる２年目，３年目は，思うような教育活動や地域行事への参加ができませんでした。学校や地域，徳之島町，世界自然遺産登録の島のために，もっとできたことがあったのではないかと深く反省しています。

この地での貴重な体験や学んだこと等，今後の教育活動や人生に生かしていきたいと思います。できることなら，さよならばかりの人生ではなく，一生のお付き合いをお願いできれば有難いです。本当にありがとうございました。おぼらだれん。

令和４年３月８日

忘れてはいけないあの日

徳之島町立花徳小学校
校　長　　石川　雅実

あの東日本大震災から１１年目を迎えようとしています。時の流れの早さに驚かされると共に，あの頃の記憶や気持ちが鈍化しているように思えます。あの震災の記憶を風化させないことが，何よりの教訓につながるのではないかと考えます。

学校でも各種災害の避難訓練や防災授業を行っています。自ら考え，自ら身を守る行動が取れるように，防災に対する意識を更に高く持つことが必要だと思います。

災害はいつ起こるか分かりません。忘れた頃にやってきます。防災マップ，避難経路，防災グッズ，連絡体制等の確認が必要です。今までの教訓を忘れることなく，いざというときに生かしていきたいものです。のど元過ぎれば…にならないように。

復興に向けて，日々努力をされている方々の御苦労を共に感じる気持ちを忘れず，自分にできることを考え，実行していきたいと思います。改めてこの震災で亡くなられた方々の御冥福と被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

令和４年３月１日

別れと出会いの季節

徳之島町立花徳小学校
校　長　　石川　雅実

３月に入りました。季節は確実に春に向かっています。子供たちは卒業式，修了式といった節目の行事を迎えます。本年度，自分の立てた目標達成に向け，有終の美を飾ってほしいと思います。

教職員にとりましても３月は特別な月です。３月末に定年退職を迎えられる方々は，長年，教育の充実，発展の為に公私を問わず御尽力されました。その足跡に感謝したいと思います。

転勤する方々にとりましては，惜別や感謝の念，期待や不安といった様々な感情が渦巻くことになります。現任校での学びを新任地でも生かし，恩送りに繋げてほしいと思います。

新規採用の方々には，教職を目指した崇高な理想を忘れないようにしてほしいと思います。どの職種でも困難はつきものです。周囲への相談を大切に，困難を乗り越える強さとしなやかさを持ってほしいと思います。私も初めて教壇から対峙した子供たちの幼い笑顔を懐かしく思い出しました。常に初心を大切にしたいと思います。

令和４年２月２４日

温かい共生社会の担い手の育成

徳之島町立花徳小学校
校　長　　石川　雅実

天皇誕生日の陛下のお言葉を耳にし，社会のあり方について深く考えさせられました。それは，週刊誌報道やインターネット上での誹謗中傷記事に関する内容のことです。

お言葉にあるように，人々が自分の意見や考えを自由に表現できる権利は，憲法が保障する基本的人権として，誰もが尊重すべきものです。また，人々が自由で多様な意見を述べる社会を創っていくことは大切なことです。しかし，他者に対して意見を表明する際には，その人の心や立場を傷つけることもあるということを常に心に留めておく必要があります。他者のおかれた状況にも想像力を働かせ，異なる立場にあったり，異なる考えを持つ人々にも配慮したりして，尊重し合える寛容な社会を築いていかなければならないと思います。

学校でも道徳教育や情報モラル教育の充実を図っていきたいと思います。自他共によりよく生きることへの関心を高め，思いやりある共生社会の担い手を育成していきたいです。

令和４年２月１５日

入学の希望と期待に応える

徳之島町立花徳小学校
校　長　　石川　雅実

来年度の新入学児及び保護者の皆様に対して入学説明会を開催しました。園児たちは１・２年生に手を引かれ，楽しそうに学校探検を行っていました。

保護者の皆様は説明を真剣に聞いておられました。特に初めて入学を迎える方は不安なことも多いことでしょう。分からない点は遠慮なく学校に相談してください。また，入学式までにお子様と通学路を一緒に歩き，安全な登下校ができるようになってほしいと思います。

小学校生活への期待感を高める声かけもお願いします。学校は自ら楽しさを見出すところでもあります。授業では各教科等のねらいの達成に向けて，教材や他者との関わりの中で多くのことを学び，苦手意識を克服し，学ぶ楽しさを実感していきます。また，集団生活上のルールは安心・安全な生活を送る上での必須事項です。機会を捉え，具体的に御指導ください。

御家族で楽しみにされているお子様の小学校入学を，職員一同，万全な態勢でお待ちしております。

令和４年２月８日

女子モーグル川村選手のインタビューに感動

徳之島町立花徳小学校
校　長　　石川　雅実

冬季オリンピック北京大会が始まりました。連日の選手の皆さんのパフォーマンスに心が踊ります。注目選手ばかりに関心が向きがちですが，全ての選手を応援したいと思います。

母国の期待を背負い，メダル獲得への重圧は相当なものだと思います。選手の皆さんにはその重圧をはねのけ，今までの練習を信じ，思いっきり競技を楽しんでほしいと思います。

女子モーグルの川村選手が，メダルに届かなかった悔しさをにじませながらも，気丈に，支えてくれた関係者や家族への感謝の言葉を語っていました。また，自身があきらめずに頑張ってきた姿を見てもらうことで，何らかの励みになればと続けていました。取材直後には，報道陣へ対して「寒い中ありがとうございました。」と優しい気遣いの言葉をかけていました。そのインタビューを見聞きして，素晴らしい高校生だと感心しました。思わず涙がこぼれました。そして，今後の彼女の活躍を祈らずにはいられませんでした。

令和４年２月１日

希望を抱ける春へ

徳之島町立花徳小学校
校　長　　石川　雅実

２月３日は節分です。各家庭で豆まきの光景が見られることでしょう。

残念ながら，今年もまた新型コロナウイルス感染症という病気鬼を退治することが急務となっています。

古くから豆は「魔滅」と書くことができることから，鬼を退治できる穀物だと信じられてきました。また，厄払いの豆は芽が出ないように煎った大豆を用いたそうです。これは悪いことが再生しないようにとの願いが込められています。疫病や飢饉，争乱といった様々な困難な状況にあっても，先人達は知恵を出し合い，これらを打破しようと勇気を持って行動してきたに違いありません。生活を明るく，豊かにするための叡智や伝統行事にも学ぶべきことがたくさんありそうです。

最先端の科学的知見による新しい行動様式や医療システム，ワクチンや薬剤の開発などの「魔滅」を投げつけ，長き闘いに終止符を打ちたいものです。

節分の翌日は立春です。希望に満ちた卒業，入学シーズンを迎えたいものです。

令和４年１月１７日

平穏な日は好日なりと再確認

徳之島町立花徳小学校
校長　石川　雅実

昨日，日が変わったばかりの深夜，けたたましい携帯電話や防災無線による津波警報により，慌ただしく高台を目指して車で避難しました。避難所の駐車場で，携帯電話から学校安心メールで高台への避難を促し，その後，所属職員へ安否と避難確認の連絡を入れました。車内で情報収集に努め，夜明けを待ちました。幸い大きな被害もなく，避難所の駐車場を後にしました。

校区内の状況を確認し，学校へ戻り，再度，安心メールで海や川に近づかないように注意喚起を行いました。

今回は週休日で，子供たちの避難行動は保護者の方で行いましたが，授業日に起きた場合の行動マニュアルの再確認と改善点等を再考しました。大切な命を守り抜くためにできることを，今回の避難行動を教訓として生かしていきたいと思います。

病気になって分かる健康の有難さ同様，平穏な日々の大切さを改めて痛感する一日になりました。奇しくも今日は阪神淡路大震災から２７年目の日です。

令和４年１月１０日

１２月の若い目賞に感動と感謝

徳之島町立花徳小学校
校　長　　石川　雅実

南日本新聞社ひろば欄の１２月若い目賞を受賞しました。これは投稿や採用の数ではなく，作文の内容や取組の継続性などを総合的に判断される賞です。コロナ禍の沈みがちな昨今，とても嬉しい受賞となりました。

昨年１２月に二点の作文が掲載されました。世界自然遺産登録記念式典での環境教育実践発表とその後の軽石除去奉仕作業についての作文と，全島一の闘牛を育てることと授精師になりたいという夢についての作文です。子どもらしい清らかな感性と徳之島への郷土愛がよく伝わりました。次代を担う若者が育っていることにも喜びと頼もしさも感じました。

作文を書く際，まずは課題に気づく目を持つことが大切です。そして，自分の思いや考えをもとに実際に行動し，そこで感じたことを新たな発想につなげ，目的や相手意識を持って表現することが大事です。

この受賞を契機に，子どもたちの思考力，判断力，表現力等が更に高まっていくことを楽しみにしています。

令和４年１月４日

元日の決意も新たに三学期

徳之島町立花徳小学校
校　長　　石川　雅実

三学期は本年度のまとめの学期です。そして，進学，進級と新年度に向けての準備の学期でもあります。三学期始業式には，子供たち一人一人が新年の目標や計画を立てて，登校することでしょう。それぞれの目標実現に向けて，今後も努力を続けてほしいと思います。

そうは言うものの，人間はそんなに強い生き物ではありません。誰かの支えが必要です。時には挫折を味わい，目標変更を余儀なくされます。そんなときに，子供に寄り添い，必要な支援や指導を行う大人の存在が欠かせません。教職員や保護者，地域の方々，大人と呼ばれる人々の連携とサポートが必要不可欠です。

学校と家庭，地域の三者が一体となって，子供たち一人一人のよりよき成長に，今後も深く関わっていきましょう。新型コロナウイルス感染症に負けず，「子供たちのために」を合言葉に，それぞれの立場で何ができるかを常に考え，未来を見据えた教育活動の展開と改善に鋭意努力していきましょう。

令和３年１２月２４日

よき年になりますように

徳之島町立花徳小学校
校　長　　石川　雅実

二学期もコロナ禍の中ではありましたが，学校教育活動の充実を期すため，職員と工夫を凝らしながら取り組んできました。校区合同運動会，学習発表会，持久走大会等，子供たちの頑張りに元気をもらい，感動する日々でした。子供たちもきっと達成感や成就感，自己肯定感を高めたことでしょう。また，保護者や地域の方々の温かい御支援，御協力に対しましても，感謝の連続でした。

今年も例年とは少し違う冬休みが始まります。各御家庭では感染症対策を念頭に，それぞれ楽しい計画を立てていらっしゃることでしょう。子供たちには正月ならではの体験を多く積み，地域行事や日本文化のよさを肌で感じてほしいと思います。

元日の朝，日頃見慣れた景色も何か新鮮に感じられるのは私だけではないはずです。一年の計は元旦（元日の朝）にあり。新年の抱負や目標，夢や希望等，各自の取り組むべき計画をしっかりと立て，また新たな気持ちで挑戦を続けてほしいと思います。

令和３年１２月９日

感動と勇気をもらった持久走大会

徳之島町立花徳小学校
校　長　石川　雅実

本日，新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底して持久走大会を行いました。

毎朝の体力つくりで走った距離をカードに記録し，計画的に頑張ってきた子供たちです。一人一人が自己ベストを目指し，力走を見せてくれました。沿道では保護者や祖父母，地域の皆様方が，子供たちの頑張りに声援ではなく，大きな拍手を送ってくださいました。

自己肯定感を高めるには，自ら目標を立て，工夫したり努力したりする点などを考え，その基準に沿ってどこまで達成できたかを自己評価すること，そして，それを他者が認め，賞賛するといった一連の関連性が必要です。私は子供たちの頑張りに，素直に賛辞を送ることができました。

子供たちにとっては，自尊感情と自己有用感を自ら育み，自己肯定感を更に高めることができた持久走大会になったと思います。今後の生活にも生かしてほしいと思います。コロナ下ではありますが，子供たちの頑張りに感動と勇気をもらいました。

令和３年１２月１日

自他の人権を尊重し，人権感覚を磨こう

徳之島町立花徳小学校
校　長　　石川　雅実

国際連合の活動は，すべて世界平和の実現と人権に関わっていると言えます。１９４８年１２月１０日に世界人権宣言が国連総会で採択されました。これを記念して，この日を最終日とする「人権週間」が設定され，特に１２月１０日が「世界人権デー」となっています。

本校では，１１月２９日より校内人権週間を設定し，各学級での発達段階に応じた人権学習や人権ポスター，人権標語等の作成，人権擁護委員による人権教室等の取組を計画しています。

世界人権宣言では，「人間は，人種，信条，性別，言語，または宗教などによって差別されてはならない。全ての人間の人権と基本的自由は尊ばれ，守られなければならない。」という趣旨が，前文と３６か条の条文の中に一貫して述べられています。

人権週間という特別な期間での指導や啓発も大切ですが，日頃から自他の人権を尊重する態度や人権感覚を磨くことについて，学校でも真剣に取り組んでいきたいと考えています。

令和３年１１月２１日

地域の軽石除去作業に参加して

徳之島町立花徳小学校
校　長　　石川　雅実

早朝より花徳浜に漂着した軽石除去の奉仕作業に参加しました。浜には無数の大小様々な軽石が漂着していました。海面には帯状の軽石の漂着物が散見され，今後も次々と浜に打ち上げられることが予想されます。

熊手で軽石を集め，両手で回収袋に入れる手作業です。なかなか回収は進みません。改めて自然の力の巨大さを思い知らされました。

各地で漁業関係者をはじめ，生活への様々な影響が出始めていると報じられています。軽石回収の効果的な方法や回収後の有効活用等について，行政関係者や学者，専門家といった方々の英知を結集し，対策を講じてほしいと思います。学校でも環境教育の一環として，自分たちにできることがないか，教職員や子供たちと一緒に課題を共有し，実践していきたいと思いました。

除去作業に多くの地域の方々や子供たちが参加していました。その姿を見て，美しい景観や生活を守っていこうとする姿勢や連帯意識に心は晴れやかになりました。

令和３年１１月１５日

世界自然遺産登録記念式典に参加して

徳之島町立花徳小学校
校　長　　石川　雅実

１１月１３日に行われた世界自然遺産登録記念式典に本校３・４年生が参加し，調査研究発表を行いました。

３・４年生は，町企画課，徳之島地区自然保護協議会，徳之島エコツアーガイド，NPO 法人徳之島虹の会，環境省徳之島支部等の御指導，御支援のもと，総合的な学習の時間に「世界自然遺産（徳之島環境学習）」を行ってきました。

当日は「未来に残そう徳之島の自然」と題して，学習を続けてきた海や川の魅力，ウミガメやアマミノクロウサギ等，調査結果や学習内容を発表しました。また，海や川にゴミを捨てず，環境をきれいに保ち，徳之島の自然を守るための思いや考えを国会議員や行政関係者といった来賓の方々の前で，堂々と発表することができました。

今後も徳之島の豊かな自然を守り育てる環境保全と，更なる生活の質の向上を図る持続可能な取組について，子供たちなりの新たな発想と創造に期待したいと思います。世界の宝に住んでいる誇りと自覚を胸に。

令和３年１１月１４日

青年団の学習発表会出演に感謝

徳之島町立花徳小学校
校　長　　石川　雅実

本年度は私の願いが一つ実現しました。それは，花徳青年団の皆様が学習発表会に出演してくださったことです。

青年団の皆様は本校のＰＴＡ奉仕作業や学校行事等，いつもお世話になっている方々です。また，地域の発展に寄与するだけでなく，町内の各種イベント等でも大活躍しています。徳之島では本青年団のことを知らない人がいないくらい，団結や行動力で有名です。そんな皆様を私は尊敬し，誇りに思っています。

当日は「青年団の主張」と題して，子供たちに対して伝えたいことをユーモアたっぷりに発表し，会場を大いに盛り上げてくださいました。忙しい仕事の合間を縫って，練習を重ねたことが一目で分かりました。感謝の念と共に，来年度も出演していただきたいと強く思いました。

青年団の皆様の地域を想う熱い気持ちにいつも感動しています。今後も子供たちのよき手本として，また，よき後継者の育成者として，子供たちを見守り，育ててほしいと思います。

令和３年１１月１３日

秋の日に感動溢れる発表会

徳之島町立花徳小学校
校　長　　石川　雅実

感染症対策を徹底しながら学習発表会を開催しました。

幼稚園児は島口劇をかわいらしく発表しました。１年生は国語科の作文発表を，２年生は生活科の校区探検の様子を発表しました。３・４年生は徳之島環境学習について，５・６年生は防災に関する調査内容と防災への備えについて発表しました。

島唄・島口クラブは島唄の子守唄，三味線の演奏を行いました。プログラミングクラブはペッパーとのプログラミング学習の様子を発表しました。

家庭教育学級生による「あまみのけんむん」の読み聞かせは，語り口調がとても印象的で，感動しました。そして，本年度初めて出演していただいた花徳青年団は，子供たちに伝えたいことをユーモアたっぷりに表現し，発表会を大いに盛り上げてくださいました。

感動の感染は，人々に生きる希望や勇気，明るさを与えるものだと実感しました。子供たちにとっても，来場された皆様方にとっても，心に残る秋の一日になったと思います。

令和３年１１月５日

地震，津波の避難訓練を通して

徳之島町立花徳小学校
校長　　石川　雅実

今日は津波防災の日でした。本校では，気象庁の緊急地震速報訓練に合わせて，地震，津波の避難訓練を行いました。訓練ではありますが，子供たち，職員が，臨場感と緊張感を持って真剣に取り組んでいました。地震後の津波も想定し，高台まで走っての避難も行いました。実際に訓練をすることで，机上の論理では気付かない課題も見えてきました。課題解決に向けて，改善を繰り返していきたいと思います。

学校では各種避難訓練や防災授業を行っています。教児共に自ら考え，判断し，実際に自分の命を守る行動が取れるように，防災に対する意識を更に高く持つことが大切だと感じました。

災害はいつ起こるか分かりません。忘れた頃にやってきます。しかし，最近では，十年に一度と言われる大災害が，毎年どこかで起こっています。防災マップ，避難経路，防災グッズ，連絡体制等の確認が必要です。これまでの歴史上の教訓を忘れることなく，生かしていきたいものです。

令和３年１１月２日

たき火のような温かい言葉かけを

徳之島町立花徳小学校
校長　　石川　雅実

全校朝会で次のような話をしました。

「寒い冬の日，二匹のヤマアラシは，お互いの身体を温めようと寄り添いました。ところが，お互いの身体についている身を守る針が相手の身体に突き刺さり，血まみれになってしまいました。二匹は困ってしまいましたが，あることに気がつきます。針が身体に触れないちょうどよい距離を見つけて，寒さをしのいだのです。」

このヤマアラシの知恵は，人間関係にも使えそうです。ちょうどよい距離を見つけ出せるといいですね。

さて，人間の身体には針がありませんが，一つだけ針を持っているものがあります。それは言葉です。できることなら，他者には針のように痛く，冷たく，ちくちくする言葉ではなくて，たき火のようにぽかぽか温かく，優しい言葉をかけてあげたいものです。北原白秋の詩にある「きれいな言葉はきれいな心，優しい言葉は優しい心。一つの言葉を大切に，一つの言葉を美しく。」です。皆さんも心がけてくださいね。

令和３年１０月２２日

秋の夜長は親子読書などいかがでしょう

徳之島町立花徳小学校
校長　　石川　雅実

暑からず寒からず，読書に最適な季節になりました。読書週間は１１月３日の文化の日を中心にして前後二週間と定められているので，ちょうど１０月２７日からスタートすることになります。

本校では，読書旬間としてすでに読書に関する取組を行っています。図書委員会の校内放送での読み聞かせや親子読書の日の呼びかけ，図書室での新刊コーナーの設置，読書感想文，感想画コンクールへの応募，読書郵便などの活動に取り組んでいます。子供たちは楽しそうに図書室へ足を運び，読書冊数も伸びています。

最近では特に電子メディアに押され，子供たちの活字文化離れが懸念されています。読書は遠い歴史を遡ることも，世界の国々を旅することも，あるいは宇宙の彼方へ夢を馳せることも可能です。想像力や表現力の育成にも繋がります。

秋の夜長は，親子読書などいかがでしょうか。本の内容はもちろんのこと，親子のふれあいもきっと温かな思い出として残ると思います。

令和３年１０月１３日

小中連携で渋柿の焼酎漬けを思い出す

徳之島町立花徳小学校
校長　　石川　雅実

小中連携研修会が行われ，その開会の挨拶の結びの一句として「しょうちゅうで甘味加わる渋柿や」と詠ませてもらいました。

小中連携から焼酎を発想する安易な句ではありますが，参加された先生方に９年間を見通した児童生徒の健全育成，学力向上策等について，連携方策を深く考えてほしいという願いもありました。また，この時期になると思い出すことがあります。

実家に渋柿の木がありました。毎年実がなり，その実を父が収穫し，渋柿の焼酎漬けを作っていました。漬けた日は，家中が焼酎の匂いで充満し，子どもの私にとっては臭くて，不快に感じていました。しかし，数日経つとその嫌な匂いも甘い香りに代わります。渋柿が甘くなることに対する驚きと不思議な気持ちで食べていました。

他界した父親は焼酎好きでした。渋柿を漬ける焼酎をけちり，残った焼酎を隠れてこっそり飲んでいました。柿好きの母も容認していたのでしょう。忘れられない懐かしい光景です。

令和３年１０月１１日

初心を忘れず教職の道を歩む

徳之島町立花徳小学校
校長　　石川　雅実

県公立学校教員採用試験二次合格者の発表がありました。県教育委員会のホームページからも確認することができるので，知人の受験番号を探し出し，自分のことのように嬉しくなりました。

３０年以上前のことですが，鹿児島市に住む母からの電話で合格の知らせを聞き，大喜びしたことを今でもよく覚えています。当時，大学４年生で，ちょうど教育実習期間中でした。吉報の翌日，指導担当教官に合格の報告をすると，「おめでとう。４月になれば，まだ見ぬ子供たちとの出会いが待っています。教育実習にも更に力が入りますね。」と，祝福と励ましの言葉をかけてもらいました。

教員採用試験に合格することは，とても難しいことです。しかし，教師であり続けることは，もっと難しいことでもあります。私もあのときの感動と初心を忘れることなく，教職の道を精進していきたいと思います。

合格された皆さん，理想とする教師像に向けて，学び続ける教師であってください。

令和３年１０月７日

不審者対策も台風同様備えが必要

徳之島町立花徳小学校
校長　　石川　雅実

警察署，地域防犯協会，子ども１１０番の家の方々をお招きし，不審者対応訓練を実施しました。毎年実施している訓練ではありますが，子供たちや職員にとって，日頃の危機管理や避難行動等について，改めて深く考えるよい機会となりました。

台風対策は天気予報等で事前に対応可能ですが，不審者の侵入は予測不可能な事態です。常日頃から対応マニュアルの確認や改善，共通理解と共通実践，連絡体制の手順や関係機関との連携の在り方等について，再確認する必要性を感じました。

万が一に備え，登下校中や休日における対応等についても，訓練で学んだことを実生活に生かしてほしいと思います。各御家庭でも避難行動の「いかのおすし」の実践について，再度確認されてください。特に大声を出して逃げることを最優先させてください。

不審者の見極めはとても難しいことです。しかし，日頃から誰に対しても気持ちのよい挨拶を実践することは，防犯上も必要なことなのかもしれません。

令和３年１０月５日

前向きな姿に実り多き秋を予感

徳之島町立花徳小学校
校長　　石川　雅実

全校朝会で「〇〇の秋」と書いた一枚の紙を子どもたちに見せて，そこに入る言葉を考えてもらいました。子どもたちは，スポーツの秋，読書の秋，食欲の秋等，様々な秋を考えてくれました。学習にも適した時期なので，「学問の秋でもあります。実りの秋になるといいですね。伸びる子の決意もかたし天高し」と，付け加えておきました。

いつものように授業参観をしていると，常日頃から授業改善に努力している先生方ですが，発問構成，板書の構造化，ＩＣＴ機器の活用等，更に工夫を凝らした授業が展開されていました。また，懸命に学ぶ子どもたちの姿がそこにはありました。教児一体となって励む姿がありました。思わず各教室の前で足を止め，授業展開に見入ってしまいました。

受け身の姿勢では多くの収穫は期待できません。前向きな懸命な取り組みの中にこそ，大きな収穫が期待できると思います。教児共に学ぶ楽しさを追求する姿勢に，実り多き秋を予感しました。

令和３年１０月１日

清々しい朝の登校指導

徳之島町立花徳小学校
校長　　石川　雅実

朝の登校指導を行っていると，毎朝いろんな楽しみに出会います。小学生，幼稚園生の元気な語先後礼の挨拶，停車してくださった方への感謝の言葉と会釈の光景にいつも癒されます。

また，わざわざ減速され，窓を開けて「暑い中，いつもご苦労様です。」「雨の中，大変ですね。」と声をかけてくださる保護者や地域の方々，見知らぬドライバーの方もおられます。学校を留守にした翌朝には「校長先生，体調が悪かったのではないですか。」と心配して声をかけてくださる方もおられます。本当に嬉しくて感謝の気持ちでいっぱいになります。毎朝，本当に清々しい気持ちになり，私にとっては楽しい日課です。また，生きる喜びにもつながっています。

他者から見たら，きつい，大変だと思われるようなことも，当の本人にとっては，楽しみだったり，生きがいだったりします。仕事や勉強なども心がけ一つで，楽しみにも苦しみにもなるのだなと，登校指導中にふと思いました。

令和３年９月１９日

コロナ禍に感動もらう運動会

徳之島町立花徳小学校
校長　　石川　雅実

本日，二年連続の午前開催となりましたが，幼稚園，小学校，校区との合同運動会を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止策と熱中症対策との間で，練習期間中を含め，大変悩むことの多い中での開催となりました。しかし，来賓，保護者，地域の方々の御協力のもと，無事に終了できました。御参加くださった全ての方々に心より御礼申し上げます。子供たちにとっても制約の多い中での日々の練習でしたが，その成果を遺憾なく発揮し，思い出に残る運動会になったものと信じています。

人は一生懸命に取り組み，励む姿に素直に感動するものです。感動とは，文字通り心が感じて，心が動くことです。子供たちのひたむきに走る姿や楽しそうに踊る表現運動，そして，応援の大きな拍手や演舞に思わず涙腺が緩みました。一人一人の頑張りに感動する運動会となりました。

多くの方々の力で成り立った運動会です。子どもたちにも，きっと感謝の念が生まれたはずです。その気持ちを忘れずに，今後も様々な面で活躍してほしいと思います。

令和３年９月１４日

敬老の日に亡き父を想う

徳之島町立花徳小学校
校長　　石川　雅実

９月２０日は敬老の日です。私の両親と同世代の方々は，先の悲しい大戦の戦前，戦中，戦後の混沌とした世の中をたくましく生き抜き，高度経済成長に貢献され，平和な日本の礎を築いてこられた方々です。並大抵の苦労ではなかったはずです。たくさんの悲しみや苦労を乗り越えてこられた方々だと想像に難くありません。

すでに他界した昭和８年生まれの父親が，酒に酔えばいつも戦後の混乱期の話をしてくれました。「その当時はみんな苦しみの中にいた。しかし，苦労を苦労とも思わず，懸命に働いた。明日の幸せを信じて。物質的な豊かさはなかったが，今思えば，とても楽しかった。夢はいくらでも見ることができたから。」と。

時代は昭和から平成，令和に変わりました。新型コロナウイルスと共存して生きる昨今ですが，誰もが夢や希望を抱ける時代であってほしいものです。亡き父の生き様をもっと知り，もっと語り合い，素直に感謝の気持ちを伝えるべきでした。

令和３年９月８日

感染症，熱中症対策の難しさと今後への期待

徳之島町立花徳小学校
校　長　石川　雅実

９月に運動会や体育大会を控えている学校では，新型コロナウイルス感染症対策と熱中症対策との相反する矛盾点に苦慮しながら，練習を続けていることと思われます。本校も例外ではなく，日々の練習で改善点を探る試行錯誤の日々です。対策の原則は大切にしながらも，個別具体といった対応も忘れずに行っています。考えられるだけのことを，空振りを恐れずに実行していきたいと思います。

周知のとおり人類の歴史は感染症との闘いの歴史でもあります。細菌やウイルスという目に見えない微生物との闘いは，終わることなく日々研究が進められていると思われます。

繰り返し耳にする感染症対策や社会問題等を契機に，本校の子供たちの中からも，医学やウイルス研究に興味・関心を持ち，医学界に貢献できる人物が輩出されることを秘かに期待しています。あわせて，差別や誹謗中傷といった人の心理についての理解も深め，人権感覚をさらに磨いてほしいとも思っています。

令和３年９月３日

校訓からコロナ禍の生き方を学ぶ

徳之島町立花徳小学校
校　長　石川雅実

人が憂うと書いて優しさと読みます。人は憂いを経験することにより，他者に優しくできるのかもしれません。憂いのない人生などありません。ですから，人は皆，他者に優しくできるはずです。そういう人こそが，優れている人なのだと思います。

困っている人，助けを求めている人，誹謗中傷に苦しんでいる人には，手を差しのべる，寄り添う，思いやりのある言葉をかけるといった当たり前のことを当たり前に，勇気を出して行動に移したいものです。優しさとは，思いやりに溢れた強さだと思います。

本校の校訓は「明るく，強く，最後まで」です。子供たちには明るく元気に健康に過ごしてほしいと思います。また，他者を思う優しい気持ちや周囲への感謝を忘れず，日々の生活を送ってほしいと思います。さらに，目標に向かって最後まで，困難に負けず，粘り強くやり遂げることのできる人に成長してほしいと願います。コロナ禍の昨今，校訓から多くのことを学びました。

令和３年９月１日

やる気に満ちた笑顔に期待

徳之島町立花徳小学校
校長　　石川　雅実

今日から二学期が始まりました。子供たちの明るく元気な笑顔が学校に戻ってきました。今年もコロナ禍の影響で，昨年同様，例年とは異なる夏休みとなりました。それでも様々な思い出をつくり，一回り大きくなった姿に逞しさを覚えました。

二学期は学校教育が最も充実する学期です。感染症，熱中症対策等については，考えられる全ての実行可能な方策を，職員と共に確実に行っていきます。また，日々の教育活動や運動会，学習発表会等の学校行事につきましても，創意工夫を加えながら実施していきます。それらを通して，子供たち一人一人が「知・徳・体」をバランスよく，そして，自己肯定感を高め，自己の成長を実感できる学期にしてほしいと思います。

子供たちと職員のやる気に満ちた表情が，とても印象的な二学期始業式となりました。「まだ先の話ですが，終業式の日に，日々がんばった自分に感謝できるといいですね。」と，子供たちに一言添えておきました。

令和３年８月３０日

二学期始業式を前に

徳之島町立花徳小学校
校長　　石川　雅実

今年の夏休みも昨年同様，例年とは異なる休みとなりました。徳之島でも，新型コロナウイルス感染症の感染者が多数報告され，２回目の出校日は中止となりました。もう一月ほど子供たちの元気な声を聞いていません。

学校では，９月１日の二学期始業式に向けて，文部科学省のガイドラインや町教育委員会の通知文等を手がかりに，今まで以上の具体的な感染症対策を行っていきます。最善を尽くし，子供たち，保護者，地域の方々，教職員の安心安全の確保に努めていきます。

各御家庭でも，気を引き締めて感染症対策に取り組んでください。デルタ型は感染力が強く，子供から家庭内への感染拡大も懸念されています。発熱や風邪等の症状が見られる場合は登校を控え，保健所への連絡や病院受診をお願いします。自他の生命を守る勇気ある行動をお願いします。また，感染者や濃厚接触者等への人権侵害，誹謗中傷，差別等がないように，今後も御配慮をよろしくお願いします。

令和３年７月２７日

徳之島の魅力を実感し，発信しよう

徳之島町立花徳小学校
校長　石川　雅実

徳之島を含む四島が世界自然遺産に登録されました。島民の皆さんの地道な努力に敬意を表するとともに，この地に赴任し生活していることを誇りに思います。

本校では２年前から３・４年生が総合学習において，徳之島の自然環境について調査，研究をしてきました。町企画課，NPO 法人等の協力，支援を得て，充実した学習へと強化してきているところです。また同時期に徳之島唯一の緑の少年団が発足し，自然環境を守る活動にも取り組んできました。今後も持続可能な活動へとつなげていきたいと考えています。

徳之島でも過疎化や少子高齢化問題は喫緊の課題です。それだけに私は，この島の将来を担う子どもたちに，環境保全と生活の質の向上を両立するための新たな発想と創造に期待しています。また子どもたち自身に人情味溢れる結いの精神や豊かな文化を実感してもらいたいです。そうして徳之島の魅力をさまざまなメディアを通じて発信し，多くの人に伝えてほしいと思っています。

令和３年７月２３日

ガンバレ，選手の皆さん

徳之島町立花徳小学校
校　長　石川　雅実

東京オリンピックが始まりました。様々な困難や問題点を多く抱えての開催となりましたが，選手の皆さんに罪はありません。この日のために練習に励んできた成果を披露してほしいと思います。

学校では「個別最適な学び」と「協働的な学び」との有機的な関連をとおして，「主体的・対話的で深い学び」の創造に向け，日々授業に取り組んでいます。「個別最適な学び」は個の知・徳・体の学び，「協働的な学び」は集団の知・徳・体の学びと言えます。個の学びは個人種目，集団の学びは団体種目に通じると思います。それぞれの学びを今，この瞬間のために発揮してください。

各選手の皆さんが置かれた境遇や環境は異なるでしょうが，それぞれが掲げた目標に向け，鍛錬を続けてきた事実は共通すると思います。その日々の努力，汗の尊さを全世界の人々に見せてください。そして，夢や希望，感動といった活力を与えてください。皆さんの活躍をテレビの前で応援しています。

令和３年７月２０日

有意義な夏休みに

徳之島町立花徳小学校
校 長　　石 川 雅 実

今年の夏休みもコロナ禍の影響で，いつもと違う夏休みになるかもしれません。それでも家族と過ごした夏休みの思い出は，貴重な人生の財産になるはずです。旅行やイベント等，特別なことではなく，家庭での手伝いやふれあい，何気ない親子の対話を大切にしてほしいと思います。

子供が感じる時間の長さと大人のそれとは違いがあるそうです。時間を体感する長さが，大人と子供では異なるというのです。子供は様々なものに興味を示し，不思議に思い，疑問に感じ，いろいろと考える時間が大人よりも長いので，時間の過ぎ去る感覚が大人より遅く感じられるとのことです。

夏休みはお子様が家庭で過ごす時間が長くなります。なかには早く学校が始まればいいのにと思う保護者の方もいらっしゃるかもしれません。子供の興味・関心，疑問とうまく向き合い，保護者にとっても短いと感じられる休みになればいいなと思います。楽しい時間はあっという間に過ぎ去るのですから。

令和３年７月１２日

教師の温かい心遣い

徳之島町立花徳小学校
校長　　石川　雅実

校内巡視の途中，１年教室を覗いてみました。みんな，担任の先生の顔を見ながら，楽しそうに学習に取り組んでいます。ふと机の上に目が止まりました。きちんと並べられた鉛筆と消しゴム，そして，フェルト生地で作られたペンケースがありました。それには，担任の先生が手書きで書いたと思われる子供の名前が，一人一人書かれていました。

あとで担任の先生にペンケースのことを尋ねました。すると，「以前，先輩の先生に教えてもらってから，毎年，作るようにしています。教室での机上整理用です。」と，照れくさそうに教えてくださいました。少人数だからこそできることだと考えられがちですが，一人一人の子供を大切に想う気持ちに心を打たれました。そして，ほのぼのとした温かい気持ちにもなれました。

校門はもちろん，通用門でも登，退庁時に一礼を忘れない教職員の姿を，毎日，目にします。率先垂範，教師の後ろ姿から何かを学ぶ子供たちも多いはずです。

令和３年７月７日

短冊に願いを込めて天の川

徳之島町立花徳小学校
校長　　石川　　雅実

校舎の２階多目的ホールに，担当の先生が準備してくださった彦星，織姫，天の川の絵が掲示してあります。子どもたちが書いた短冊とともに。

短冊に目を移してみると「バレー少年団が優勝できますように」「お兄さんが横綱になれますように」「クロールで２５メートル泳げますように」「毎日笑って楽しく過ごせますように」等々，微笑ましい願い事が書かれていました。昨今の状況を反映して「コロナ禍が一日も早く収まりますように」と書かれた短冊も多く見かけました。思わず「同感」と頷きました。

令和を生き，令和の社会を創る担い手となる子どもたち。それぞれの夢に向かって努力を続けてほしいと思います。日々の努力や頑張りがきっと未来に通じます。人生は日々の積み重ねであり，振り返った時に過去は思い出として輝きます。よき思い出をたくさん残し，よき人生を築いてほしいものです。「みんなの願い事が叶いますように」と短冊にしたためておきました。

令和３年６月２１日

父の日に思ったこと

徳之島町立花徳小学校
校長　石川雅実

昨日は父の日でした。今年もコロナ禍で不要不急の外出を避け，大切な人との対面を自粛されている方が多いのではないでしょうか。私の場合，実の父，妻の父もすでに他界していますので，プレゼントを贈ったり，電話をかけたりすることもできなくなりました。

就寝前に元気だった頃の父を思い出しました。そして，家族の近況報告，日々の健康や安全，幸せに生きられるようにと，両手を合わせました。きっとその願いを叶えてくれるだろうと自分勝手なことを思いました。心が落ち着き，心強くも感じられました。時間を見つけ，墓参りに行かないといけないと反省もしました。

皆，さまざまな悩みを抱え，必死に生きているのが現状ではないでしょうか。解消法の一つとして，先祖の墓参りに行き，両手を合わせ，悩んでいることを心の中で語りかけてみてはどうでしょうか。故人を偲び，手を合わせるだけで，効果が表れる人もいるかも知れません。そんなことを思いました。

令和３年６月１７日

子育てメッセージ

徳之島町立花徳小学校
校長　石川雅実

本校の家庭教育学級で，子育て講座の講師を務めました。演題に「保護者の皆様へ私からのＩ（愛）メッセージ」と題して，人間理解や道徳性の発達，躾（しつけ）といった内容について，哲学や心理学，脳科学的見解等を交えながら紹介しました。また，私自身の失敗談や既に社会人となった我が子からのメール等の紹介を通して，子育てへの後悔と今の想いを語りました。参加者の皆様が，最後まで真剣に私のつたない講話に耳を傾けてくださり，深く感謝しました。

子育ての時期はあっという間に過ぎ去ってしまいます。子育てを楽しむ心の余裕を持ちたいものです。一人で抱え込まず，周囲の手も借りてほしいと思います。個に応じた日々の関わりが，必ず伝わり，実を結ぶ日がきっと来ると信じましょう。親となることができた出産時の感動を忘れることなく，共に成長し続けてほしいと思います。一生涯，親は親であり，子は子です。私も親業に今後も頑張りたいと思います。

令和３年６月１４日

空の旅での嬉しい出来事

徳之島町立花徳小学校
校長　　石川　雅実

所用のため，空路で徳之島から鹿児島へ向かいました。眼下に屋久島が見えました。身を乗り出すように眺めていると，客室乗務員の方が「とてもきれいに見えますね。」と声をかけ，屋久島の掲載されている地図を指さして見せてくださいました。私は「きれいですね。ありがとうございます。」と答え，その笑顔に癒されるとともに，とても楽しい気分になりました。

到着するまでの間，あれこれと考えました。私が，飛行機が苦手だと察して声をかけてくださったのではないか，そういうことが航空会社のマニュアルに書いてあるのではないか，そのような研修を受けているのではないか，といった具合です。

航空業界に限らず，いろんな職種で，各種研修を受け，業務を遂行しているはずです。特に昨今は，コロナ禍の中でも，様々な工夫を凝らし，必死に頑張っているのだと思われます。私も頑張らねばと思いました。そして，自由に空の旅を楽しむ日が来ることを願いました。

令和３年６月１０日

時の記念日に想う

徳之島町立花徳小学校
校長　石川　雅実

学校では，６月になると生活目標として「時間を守る」ということを掲げ，時刻，時間について指導する機会が増えます。それは，「時の記念日（６月１０日）」を通して，子どもたちに時間の有効活用を考えさせたいからです。

生活のリズムを整えることは，時間を大切にすることにつながります。できている子には，「時間の使い方がうまいね。」「時間を上手に使っているね。」などと褒め，更に時間の活用と行動とを結び付けて意識させてあげる，できていない子には，できたところから褒めていくと少しずつ意欲がわいてくると思います。

「生きる力」として考えたとき，時間を有効に使う能力は将来大きな差を生みます。時間は命の一部だと言った人もいます。すべてのものが高速化する時代ですが，「時の記念日」にちなみ，時間がすべての人に平等に与えられたものであることや有限であることなど，時の有効活用について，今一度考えてみてはいかがでしょうか。

令和３年６月４日

最新最善の自分へ

徳之島町立花徳小学校
校長　　石川　　雅実

朝，目が覚めました。新しい一日の始まりです。当たり前なことですが，今朝は，自分史の中で一番新しい一日の始まりです。難しいことではありますが，自分史上最新で，最善な生き方をしたいものです。そう分かってはいても，なかなかできないことも人間の人間らしさなのかも知れません。

時を戻すことはできません。しかし，過去から学ぶことはできます。過去の教訓を生かし，最新の一日を最善に生きていくことで，自分史の日進月歩は遂げられていくはずです。そうして，いつの日か自分史が完成していくのだと思います。波瀾万丈な人生でしょうが，よりよい人生にしたいものです。

人生は，日々の積み重ね，思い出でできています。できることなら喜怒哀楽を楽しめる人生を送りたいものです。そして，よりよく生きることに貪欲に挑戦し続けたいものです。もちろん周囲に感謝しながら。

６月１０日の「時の記念日」を前に，洗顔をしながら，そんなことを考えました。

令和３年６月１日

梅雨空に傘の花咲く通学路

徳之島町立花徳小学校
校長　　石川　　雅実

６月に入りました。徳之島でも既に梅雨入りし，毎日，すっきりとしない天気が続いています。そんな中，登校時には，カラフルな傘が並び，子供たちが元気に登校してきます。

それぞれの家庭で，それぞれの時を過ごし，気分のよい日もあれば，ご機嫌斜めな日もあることでしょう。それでも，雨に濡れながらも登校する子供たち。学校では，友達と仲よく過ごし，大いに学び，充実した時間を過ごしてほしいと願わずにはいられません。ランドセルに夢や希望をたくさん入れて登校し，下校時には，充実感や喜びをいっぱい詰め込んで，自宅へと安全に帰ってほしいと思います。

まだまだ続く新型コロナウイルス感染症対策，梅雨時の食中毒予防，登下校や室内での安全指導，熱中症対策等，６月も配慮すべき点に留意し，子供たちの学びの保障に向けて，職員一丸となって取り組んで参ります。

御家庭でもお子様の発達段階に応じた声かけや励まし，御指導をよろしくお願いします。

令和３年５月２７日

園児達の行為から学ぶ

徳之島町立花徳小学校
校長　　石川　雅実

梅雨の合間を利用して，校庭の草払いを行いました。

併設されている幼稚園の園庭まで来ると，園児達が思い思いに楽しそうに遊んでいました。近づかないように注意をしてから，また作業を再開しました。

しばらくして背後に気配を感じました。ゆっくり振り向いてみると，今まで遊んでいた園児達が私から少し離れ，安全な距離を保ったまま一列に並び，刈り取った草を熊手で上手に集めていました。その様子にとても驚くと同時に，心から嬉しく思いました。園児達の活動に気付いた先生方も，楽しそうに一緒に汗を流してくださいました。

家庭で牛を飼っている園児も多く，いつも手伝いをしているのがよく分かります。草集めの作業は本当に慣れたもので，とても上手です。

小さな体で，一生懸命に草集めをしている園児達の姿を眺めながら，とても感動しました。また，他者の気持ちを深く想像し，今，何をするべきかをよく考え，実行することの大切さを改めて学びました。

令和３年５月１７日

汝自身を知ろう

徳之島町立花徳小学校
校長　　石川　雅実

本当の自分のことさえよく分からないのに，他者を理解することなど，本当は不可能なことなのかもしれません。だからこそ，知る術を知り，知る努力をしないといけないのだと思います。

先哲は，「汝自身を知れ」と説きました。自分自身を知ることの難しさを痛感していたのかもしれません。客観的に自分自身を知るには，他者からの評価も大切だと思います。自分勝手な解釈では傲慢になるからです。他者や周囲からどのように見られているのか，思われているのか，長所と短所は何か等，自分のことをより客観的に，より深く考えていきたいものです。

難しいことではありますが，他者の意見は，まずは素直に聴き，内省，熟慮，判断し，行為に移していきたいものです。他者へのいたわりの気持ちも忘れずに，心穏やかに，寛容性を大切に，笑顔を絶やさずに，周囲に感謝しながら生きていきたいものです。コロナ禍の様々なニュースを見聞きし，そんなことを考えました。

令和３年５月１０日

毎日を感謝の日に

徳之島町立花徳小学校
校　長　石　川　雅　実

昨日は母の日でした。今年もコロナ禍で不要不急の外出を避け，大切な人との対面を自粛されている方が多いと思います。

私も離れて暮らす母親に直接会うことはできないので，電話をかけました。何を語るわけでもないのですが，ただ「今日は母の日だね。いつもありがとう。」と，自分でも驚くほど素直に感謝の言葉を口にすることができました。母も「ああそうか。今日は母の日なのね。わざわざありがとう。身体には，気をつけてね。」と，はにかみながらも涙声の返事が電話口から聞こえました。短い会話ではありましたが，なんとなく心温かな気持ちになれました。

日頃，感謝の気持ちを抱いていても「ありがとう」のたった五文字の言葉がなかなか言えないものです。感謝の言葉は生ものに例えられます。早く言わないと鮮度が落ちてしまいます。その都度，タイミングを逃すことなく言えるようになりたい，毎日を感謝の日にしないといけないと，反省する母の日でした。

令和３年４月３０日

愛校の共に汗する春の暮れ

花徳小学校　校長　石川　雅実

４月２８日（水）の夕方から１時間程度，ＰＴＡ奉仕作業が行われました。ソーシャルディスタンスを保ちながらの作業となりましたが，併設する幼稚園を含め，園児，児童，その保護者，教職員，多数の地域青年団の応援もいただき，校庭，園庭がとてもきれいになりました。

特に樹木の剪定は，高所での作業のため，学校職員ではなかなか対応できません。また，保護者の所有する作業用具は，奉仕作業には欠かせません。快く軽トラや刈り払い機等を持参し，汗を流してくださる保護者や地域の方々に，ただただ頭の下がる思い，感謝の言葉しか見つかりません。

このような保護者や地域の方々の御協力や御支援は，当たり前のことではありません。そのことを再度，教職員と認識を一つにし，学校に寄せる期待に応えることができるように，今後も更なる教育活動の充実を期したいと思います。目の前で，一生懸命に手伝う園児や児童の姿を見つめながら，そんなことを考えました。

令和３年４月２８日

心の健康について

徳之島町立花徳小学校
校　長　　石川　雅実

子供たちも先生方も，コロナ禍で何らかのストレスを抱えて生きているのが現状です。ストレスの強さは，同じストレス要因に遭遇しても一人一人違います。そのストレスにどう対処するかを本人が考え，うまく対処できている状態が「心の健康」だと言えそうです。

ストレスの特効薬，それはよりよい人間関係だと思います。まず家庭における人間関係では，何と言っても温かいスキンシップだと思います。お子さんとの心身のふれあいを大切にし，家庭に「安全の基地」を築いてほしいと思います。

学校や地域では，ソーシャルサポートという「癒し」を大切にしたいものです。友達が多い方が長生きする，ストレスを上手に乗り切れると言われます。特に学校で行われる心の教育は，ストレス要因の回避行動を学ぶことではなく，他者との関係性を高め，心豊かな生活を送れるように支援していきたいと思います。全教育活動を通して，子供たちの心の健康にも向き合っていきます。

令和３年４月１５日

当たり前の素晴らしさ

校長　石川　雅実

昨日，ＰＴＡ総会を開催しました。会場に向かう途中，ふと玄関を見て，嬉しく思いました。保護者の靴がきれいに揃って，一列に並んでいたからです。赴任した２年前と同じ光景に，当たり前のことを当たり前に継承している保護者の行為に感動しました。

当たり前のことではありますが，その行為が嬉しくて，保護者の皆さんに「相変わらず，さすがです。」と賛辞を贈りました。何のことかとぽかんとされていました。保護者には，当たり前のことだからです。このような行為を子供たちに伝えるのも学校の役目です。子供たちには，親の後ろ姿をよく見て，素晴らしい善行を学んでほしいと思います。

学校，家庭，地域との三者連携は，時代が変わっても重要で必要不可欠なものです。赴任して以来，保護者や地域の方々の子供たちへの愛情，また，躾の確かさを感じます。そして，人々の優しさ，絆の強さに感動させられます。そんなことを改めて思うＰＴＡ総会になりました。

令和３年４月１３日

関心と感心を持って生きる

徳之島町立花徳小学校
校長　石川　雅実

関心と感心という漢字は同音異義語です。年度始めに当たり，この二つの言葉の持つ意味について考えてみました。

関心とは，そのことについて興味を持ち，また，そのことをより深く知ろうとする気持ちを持つことです。感心とは，困難なことを克服した自他の行為に，驚きの気持ちで見つめたり，すごいなと感じたりすることです。

子供たち一人一人，そして，私たち大人は，どのようなことに関心を持ち，それをどのようにやり遂げることができるのでしょうか。また，どのようなことに感心するのでしょうか。感心したことに対して，どれだけの賞賛の言葉を贈ることができるのでしょうか。今までの行為について深く振り返り，しっかりと反省をしたいと思います。また，成果と課題を今後に生かしていきたいものです。

コロナ禍でも日々の生活は続きます。より善く生きるということにもっと関心と感心を持って，前向きに生きていきたいと思います。明るい未来を信じて。

令和３年４月９日

想像と創造

徳之島町立花徳小学校
校長　石川　雅実

現在の自分を過去や未来から眺めてみましょう。未来の自分を想像してみましょう。新たな気づきに出会うかもしれません。現在をいろんな視点から見つめ直し，新たな何かを創造していく能力は，人間固有の能力なのかもしれません。人工知能（ＡＩ）には負けない各個人の個性や特性なのだと思います。

今現在，１０年前の自分にどんな言葉をかけてあげられますか。逆に１０年後の自分からなんと言われたいですか。過去の自分からは，「よくがんばったね。」と優しく声をかけてもらいたいし，未来の自分からも，「今の頑張りのおかげで，将来は幸せになっているよ。」と，励ましてもらいたいですね。

先行き不透明なコロナ禍の中，こんな時代だからこそ，将来に夢や希望を抱き，想像と創造という人間の人間らしい能力を大切にしていきたいものです。自分勝手な自己中心的な幸せの追求，生き方ではなく，自他共によりよく生きる道を想像し，創造していきたいものです。

令和３年４月７日

愛する人を幸せに

徳之島町立花徳小学校
校長　石川　雅実

コロナ禍で先行き不透明な現状が続いています。しかし，夢や希望を持って生活していきたいものです。また，他者への温かい思いやりを大切にし，差別や偏見をなくていきたいものです。

スタンダールは，「愛情には一つの法則しかない。それは，愛する人を幸せにすることである。」と，説きました。とてもシンプルですが，含蓄のある言葉です。同時に難しい課題でもあります。それでも，今こそ愛する人を幸せにするときです。まずは，身の回りの愛する人を幸せにしましょう。どうすることが幸せに繋がるかをよく考え，実行していきましょう。

学校における愛する人とは，一人一人の子供たちです。子供たちに深く寄り添いながら，幸せの実現を図っていきたいものです。常に子供ファースト，子供が主語になる教育活動を教職員と共に展開していきたいと思います。

朝の登校指導時，元気に，そして，笑顔満開の子供たちの様子を眺めながら，ふとそんなことを考えました。

令和３年４月６日

「また始まった。」が言える喜び

徳之島町立花徳小学校
校長　石川　雅実

令和３年度の始業式，入学式を行いました。コロナ禍の中ではありますが，子どもたちは瞳を輝かせ，やる気満々で学校生活をスタートさせました。「また始まった。」が言える喜びを噛みしめています。同時に，子供たち同様，心機一転，新たな気持ちで新学年度を迎えようと決意も新たにしました。

さて、令和３年度のスタートにあたり，昨年度の反省を生かしながら，学力向上や心の教育の推進，体力・気力の向上に意欲旺盛な教職員と共に「想像と創造」を大切にしながら取り組んで参ります。また，学校，家庭，地域の持つそれぞれの教育機能を最大限に発揮し合い，確かな信頼関係と連携のもと「子どもたちのために」を合言葉に，全ての教育活動に取り組んで参りましょう。

教児共に日本一楽しいと思える学校，そして，教児共に育つ教育（「楽校共育」）の創造に向けて，本年度も課題解決に取り組みます。学校教育への変わらぬ御支援，御協力をよろしくお願いします。